

(補注)

前述の生起確率  $Pr=0.83$  は、厳密に言えば、発生回数が2回( $k=2$ )、3回( $k=3$ )及びそれ以上の場合を含んでいる。したがって、確率論としては、発生回数(の期待値)はもう少し大きい。但し、地震の発生は、数十年から数百年の周期性を持つといわれ、算定期間(50年間)において、複数回発生することは通常想定しがたい。このため、期待値としての発生回数を計算するのではなく、発生確率を用いている。

既往調査等がないために発生確率の設定が困難である場合には、上述のことから発生回数の上限を1回とした。この場合、地震の発生確率は不確実であるが、そのリスクを回避するものとして、便益を算定していることになる。